

お花は気持ちのプレゼント

目加田 朋美 愛知県海部郡 三十八歳

この春、息子は小学生になった。たくさんの人にお世話になったなあと思う。家族、先生、それから、近所の人たち。特に、自宅から大通りに向かう道に住むおばさんには、孫のように可愛がってもらった。ランドセルを選んだこと、体操服を買ったこと、一つ一つの報告に「良かったねえ!」「楽しみだねえ!」と喜んでくれた。

「健ちゃん、もうすぐ入学式だね」冬の終わりには、その声をかけてくれた。「健ちゃんがランドセルを背負った姿、早く見たいなあ」と。だから、息子と計画を立てた。入学式の帰りに、おばさんの家に寄ることを。途中のお花屋さんで小さなブーケを買って。

入学式は前日までの雨がやんで、桜が綺麗に咲いていた。桜の下を通った帰り道、花屋でブーケを頼んだ。桜色のリボンと包装で可愛くしてもらった。

おばさんの家の前。息子は緊張してチャイムを押す。背中に花束を隠して。「健ちゃん、おめでとう!」出てきてくれたおばさんに、はにかみながら花束を差し出す。「いつもありがとう。これからよろしくお願いします」するとおばさんも「健ちゃん、おめでとう。どうぞ」なんと、花束を手渡してくれたのだ。鮮やかな黄色の花束。「お花の交換会みたいになったね」おばさんの言葉に、みんなで笑う。

きっとこの特別な日に、いつも思っている「成長おめでとう」と「見守ってくれてありがとう」の気持ちを、お花に込めて交換したんだね。